

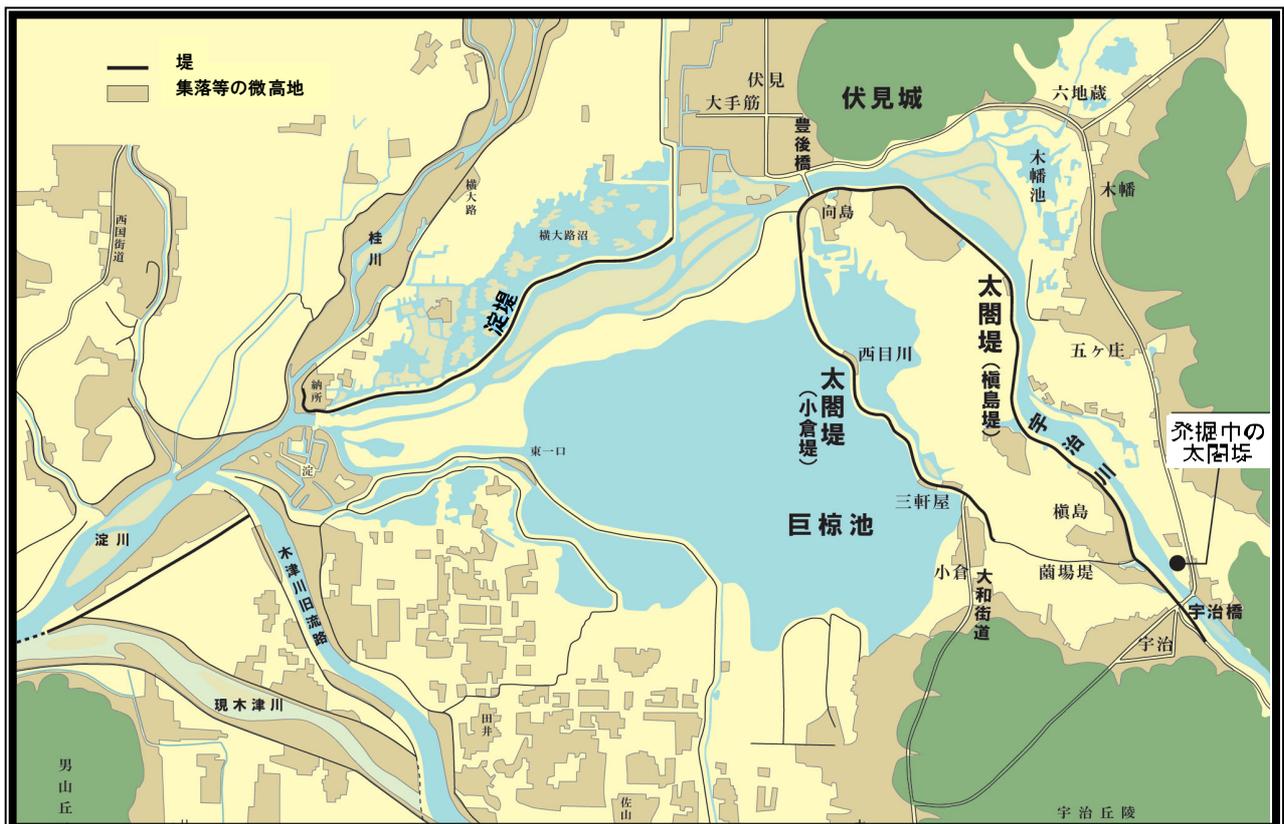
## 太閤堤とは??

太閤堤は 400年前に豊臣秀吉が宇治川につくった堤防です。文禄3年(1594年)、伏見城を築いた秀吉は、伏見城下を水陸交通の拠点にするために、前田利家や徳川家康ら諸大名に命じて宇治川と巨椋池に堤をつくらせました。榎島堤と小倉堤です。榎島堤は、ほぼ現在の宇治川左岸堤防にあたります。この堤が築かれたことで、それまで巨椋池に流れ込んでいた宇治川が池から切り離され、伏見・向島を流れ淀川につながる現在の宇治川がつけられました。小倉堤は、小倉村から伏見をつなぐ堤防で、大和街道として利用されました。



## 史跡宇治川太閤堤跡

現在、発掘調査をしている史跡宇治川太閤堤跡は、平成19年に見つかった宇治川の護岸施設です。榎島堤の対岸にあたり、太閤堤の一部です。つくられて間もなく宇治川が運ぶ土砂に埋もれたため、当時の姿をよくとどめていました。そのため、豊臣秀吉が行った治水・交通に関する大事業と、近世の土木技術を今に伝える遺跡として、国の史跡に指定されました。



# 太閤堤 発掘

## 調査の目的

宇治市では、今後こんごに史跡宇治川太閤堤跡しせきうじがわたいこうつつみあとを史跡公園しせきこうえんとして整備せいびします。太閤堤をそのまま展示てんじすると傷んでしまうので、保護ほごのために埋め戻して、その上に全く同じかたちで再現さいげんする予定です。今回は護岸施設ごあんしせつを再現さいげんするために、太閤堤を発掘して最新の3次元測量さんげんそくりょう（立体的な測量）を行い、新しい技術あたらぎじゅつを応用おうようして遺跡いせきの整備せいびを進めます。

## 調査の予定

9月



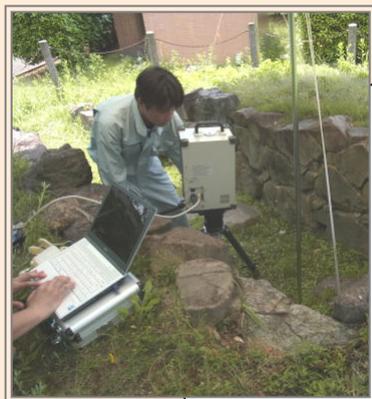
太閤堤の近くまでは、ショベルカーで土を取り除きます。



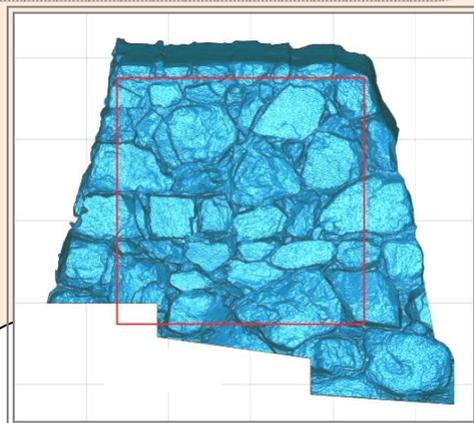
太閤堤を

壊さないように、作業員さんが丁寧に土を取り除きます。少しずつ土の下から太閤堤が姿を現します。

10月



3次元測量で、太閤堤の立体的な形を記録します。



3次元測量で、精密なデジタルデータが作成できます。

12月

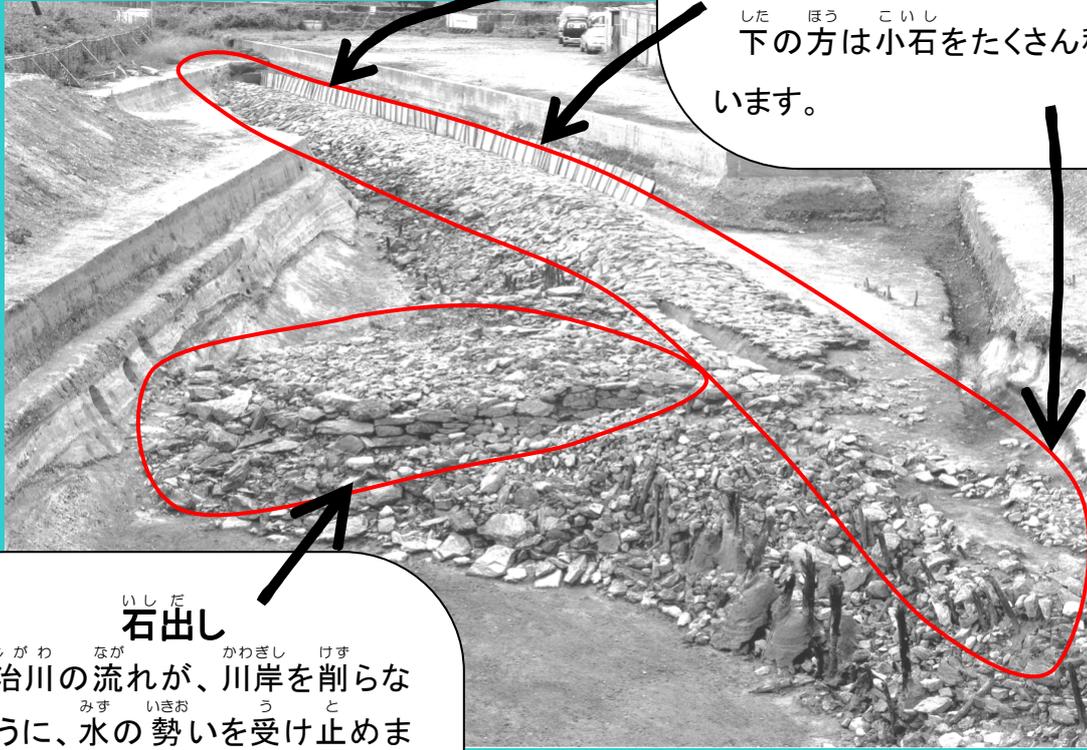
1月

太閤堤が壊れないように保護をして、埋め戻します。

# 護岸施設の見どころ

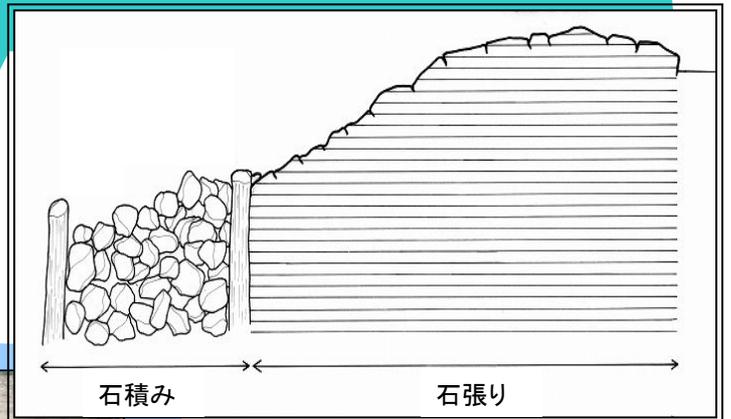
## 石積み護岸

うえ ほう ひと あたま おお  
 上の方は人の頭ほどの大きな  
 いし は っ  
 石を張り付けています。  
 した ほう こいし つ  
 下の方は小石をたくさん積んで  
 います。



## 石出し

うしがわ なが かわぎし けす  
 宇治川の流が、川岸を削らな  
 みず いきお う と  
 いように、水の勢を受け止めま  
 すいりゅう ま つ  
 す。水流に負けないように積まれた  
 いしづ しろ いしがき つ ぎ  
 石積みには、お城の石垣を積む技  
 じゆつ つか  
 術が使われています。



## 杭出し

いしだ どうよう はげ すいりゅう  
 石出しと同様に激しい水流か  
 かわぎし まも かわ む  
 ら川岸を守るために、川に向け  
 てたくさんの杭が並びます。  
 くい なら  
 杭の根元には小石が積んであ  
 ります。



おおあめ あと たいこうつつみ  
**大雨の後の太閤堤**

おおあめ あと ちょうさち みず たいこうつつみ  
 大雨の後は調査地に水がたまります。すると太閤堤はかつて  
 うしがわ ごかん ころ すがた と ちど  
 の宇治川護岸だった頃の姿を取り戻します。

あめ ひ みず ひ ちょうさこうかい うん  
 ※雨の日や水がたまってしまった日は調査公開はしませんが、運  
 よ ていぼう うえ み  
 が良ければ堤防の上から見られるかも・・・

たいこうつつみ うしぢゃ  
**太閤堤と宇治茶**

たいこうつつみ うしがわ はこ すな う おお さす ちゃ き そだ  
 太閤堤はやがて、宇治川の運ぶ砂に埋もれ、大きな砂州になります。そこはお茶の木を育てるのに  
 みず とち ちゃばたけ いとな げんざい ちょうさち みなみがわ ちゃ  
 ぴったりの水はけのよい土地になり、茶畑が営まれるようになります。現在も調査地の南側には、茶  
 ばたけ ひろ  
 畑が広がります。

うしがわ なが なが ていぼう ある たいこうひでよし げんざい れきし なが かん  
 宇治川の流れを眺めながら堤防を歩き、太閤秀吉から現在につながる歴史の流れを感じてください。

